



年次報告書

2022 ANNUAL REPORT

2022.4.1 - 2023.3.31



特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド



ご挨拶

日頃より、ハート・オブ・ゴールドの活動にご支援をいただき、誠にありがとうございます。2022年度の活動報告をここにお届けします。

カンボジアでは2年を経て、学校が再開されました。体育科教育支援事業では、「新しい体育」の普及が進み、国立体育・スポーツ研究所の4年制大学化事業は、3年のプロジェクトを終了し、更に次の3年に繋げています。HGももたろう日本語学校は、日本語教育事業開始当初のチェイ小学校に拠点を戻し、新しいスタートをきっています。

また、2022年8月には私達の活動が評価され、岡山県より三木記念賞を受賞致しました。ひとえに皆様のおかげと感じております。重ねて感謝申し上げますとともに、引き続き、皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

2023年6月

2023年5月

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド
代表理事 有森 裕子

Mission

ハート・オブ・ゴールドはスポーツ・教育等を通じて、人々が「希望と勇気」をもてる社会を実現します。

Vision

最も困難な状況下にある途上国や被災地、紛争地の子どもたち・人々が、自立できるように、共に生き、共に育つことを目指します。

2022 年度(令和 4 年度) 事業報告書

(自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド


(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援	・アンコールワット国際ハーフマラソン(12/4 有森代表参加)	カンボジア 日本
	スポーツエイド	・チャリティマラソン(3 大会)やスポーツイベント(2 回)の実施、協力、後援	日本
	チャリティイベント	・チャリティイベント(1 回)の実施、協力	
スポーツを通じた開発支援事業	NIPES4 年制大学化プロジェクト フェーズ 1 [外務省 NGO 連携無償資金協力]	・ワークショップ(教科書作成 7 回、大学マネジメント体育科コース運営マネジメント、教員能力育成研修 1 回) ・能力育成本邦研修(2 回: 東京) ・NIPES 授業・教育実習モニタリング、インドネシア・タイの大学との MOU 締結 ・評価会議、有森代表特別講義 ・寮の改修工事完了・移譲	カンボジア
	NIPES4 年制大学化プロジェクト フェーズ 2 [外務省 NGO 連携無償資金協力]	・ICT システムワーキンググループ設置 ・国際センター設置ワークショップ ・図書館建物建設	
	小学校から高等学校「Physical Education for All」プロジェクト [JICA 草の根技術協力事業]	・ワークショップ(体育普及計画策定:1 都 1 回、体育普及計画人材育成:3 都州各 1 回、評価:3 都州各 2 回) ・体育授業モニタリング(3 都州各 5 回) ・本邦研修(1 回、東京・岡山) ・新体育普及コンテンツ作成、アプリコンテンツ開発	
	スポーツ施設設置	・体育拠点小学校及び中学校、JICA 海外協力隊活動校に施設、用具を支援 ・設置済み浄水器のメンテナンス	
障がい者支援事業	パラ陸上支援	・アンコールワット国際ハーフマラソン参加支援 ・パラ陸上レーサー製作支援(5 名) ・大分国際車いすマラソンに障害者 2 名参加	カンボジア
	パラ競技会	・2023 年 3 月開催予定→中止	
被災地、紛争地における自立、復興支援事業	日本語教育	・HG ももたろう日本語学校移転(1 月、チェイ小学校内) ・日本語能力試験対策指導、新規入学児童の指導	カンボジア 日本
	養護施設(NCCG)運営	・孤児や貧困児童の受入れ、里親制度による養育 ・改修工事(外柵など)、施設整備(浄水器新設)	
	被災地支援	・3.11 東日本大震災被災地の訪問	
国際理解・交流事業	サービスラーニング(学校教育)	・出前授業(講師派遣、オンライン) ・相互交流を通じた国際協力の実践的学習の場を提供	日本 カンボジア
	受入事業	・インターンの受入れ(長期 1 名、短期 2 名)	
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	広報活動	・ホームページ、SNS の管理、更新 ・講演会、報告会、パネル展、ブース出展等の広報活動 ・「HG 通信」(2 回)、年次報告書及び広報資料の作成、配布 ・オンラインセミナー、交流会等の開催	日本 カンボジア
	支部及びクラブ活動	・HG 福島クラブ総会	
	渉外活動	・ネットワーク構築、外部対応など	
	調査・研究・情報収集	・シンポジウム、国際会議への参加 ・調査、統計、情報収集、資料整備、分析	


(2) その他の事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
物品販売事業	収益事業	・バザー、イベントでのブース出店 ・オリジナルグッズ・書籍の販売	日本

国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン／スポーツエイド	
支援対象	日本国内、及びカンボジアの大会参加者、カンボジア活動対象者	
活動理由	アンコールワット国際ハーフマラソンの実現に向けて、日本の有志が日本国内のチャリティマラソン大会から、その資金を集めた。その意志が、現在も引き継がれている。マラソンをはじめとしたスポーツ大会やイベントがチャリティを掲げ、ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで取り組む活動を支えている。	
活動概要	<p>日本、カンボジアともに新型コロナウイルスの影響が軽減し、往来が再開した。それに伴い、多くの大会やイベントがほぼ通常開催となった。</p> <p>1. アンコールワット国際ハーフマラソン 12月4日、シムリアアップのアンコール遺跡にて、69カ国7,543人のランナーを迎え、開催。カンボジア人ランナーが5,814人と多数を占め、国内の大会として定着したことがうかがえる。</p> <p>2. 第12回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国 10月2日、子どもとその保護者244人が参加し、開園前の遊園地内を周回ランニング。カンボジアの小学校に鉄棒を贈るチャリティ大会。</p> <p>3. アニモの会 6月23日ホテルグランヴィアにて、岡山をホームとするスポーツチーム11団体が一堂に介し、若手経営者の方々に活動を報告。岡山のスポーツ振興を更に発展させていくとともに、当会への支援もいただいた。</p>	 <p>アンコールワット国際ハーフマラソン スタート前</p>

国際理解・交流事業

事業名	サービ斯拉ーニング(学校教育)	
支援対象	日本:小・中・高・大学 カンボジア:HG ももたろう日本語学校、NCCC、体育認定校(※物資配布先)	
活動理由	学校が取り組む総合的な学習や国際理解教育、ボランティア活動に協力。スタッフや現地活動者による講演や出前授業、ICTによる交流や、動画・文通・現地訪問など様々な手段を活用。そして、交流と実践をとおして、子どもが世界の現状(貧困、環境、平和など)に目を向け、グローバルな視点で国際理解(異文化理解)を深め、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、更に自分理解につなげ、自己の可能性と力に目覚め、すすんで社会のために活動できる人材の育成に寄与する。	
活動概要	<p>SDGsの達成に取り組む学校や教育機関に協力。SDGsネットワーク岡山の世話人会合に参加。</p> <p>1. 出前授業(8回) 当会の活動を通して海外、特にカンボジアを理解し、自分達にできる活動につないで実践した。支援の意味を考え、一方通行ではなく、お互いが異文化を理解しグローバルな世界を実感することができた。自分達が支援した募金や物資が、現地に届き、喜ばれ、活用されたことを知ることで、活動の意味を実感した。本年も、SDGsネットワークおかやまの一員としても、出前授業を実施。特に、現地とオンラインで結び、交流できたことは顔が見え、声が聴ける交流となっている。Skype、ZoomやGoogle Meet等、多様なツールを使用できる学校が増えてきた。</p> <p>2. 物資・募金による活動 現地で必要とされる物資は、協力者のコンテナ輸送と合わせて、カンボジア渡航時の持ち込みにより届け、大いに役立っている。学校からの募金は、NCCCの栄養改善とサッカーゴール設置、並びに日本語教室修理に充てた。</p>	

障がい者支援事業

事業名	障害者陸上支援		
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、 カンボジアパラリンピック委員会(NPGC)、カンボジア障害者陸上連盟(CPAF)、障害者		
活動理由 カンボジアでは、障害者に対する差別や社会制度が十分でないために、障害者が社会に出ていくことが難しい。ハート・オブ・ゴールドは設立当初から「アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)」を通して、障害を持つ人が、スポーツの力により障害を克服できるようになることを願い、同大会への障害者ランナー参加の仕組みを作った。そして、AWHMで上位に入賞した障害者ランナーを「かすみがうらマラソン」に招待する等、より多くの大会に参加する機会を提供してきた。			
活動概要 カンボジアのパラリンピック委員会と協力し、障害者陸上の支援を行っている。選手・指導者の育成、啓発活動等に取り組んでいる。 <ol style="list-style-type: none"> 競技用車いす(レーサー)の製作 (11月5-8日) カンボジアパラ陸上車いす選手5名が来日し、(株)オーエックスエンジニアリングにて採寸を行い、選手一人ひとりの体に合わせたレーサーの製作を依頼した。グロップサンセリテ WORLD-AC 選手兼監督の松永仁志氏の立ち会いのもと、採寸におけるアドバイスをいただいた。約3か月の後に選手のもとに届いたレーサーで、2023年6月に開催されるASEANパラゲームに臨んだ。 大分国際車いすマラソン (11月17-22日) グロップサンセリテ WORLD-AC 松永氏の推薦もあり、大分国際車いすマラソン実行委員会より新設された「アジア・チャレンジ・アスリート」枠に、ヴァン・ヴォン選手、ヘン・サヴン選手の2名が招待され、ハーフマラソンに出場した。選手宣誓も行い、貴重な経験となった。 アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM) (12月3-4日) コロナ禍以降初めて制限なく行われ、当会がサポートする障害者(車いす・義手・義足・知的障害・視覚障害)42名が出場。うち初出場は3名。また、AWHMと姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンは、コロナ禍でストップしていた障害者選手の招待を2023年から再開するため、今回のAWHMで優秀な成績を収め、かつ、今まで1度も日本に行ったことがない障害者2名を有森賞として選出した。 シューズとTシャツの贈り物 (12月17日) (株)栄光スポーツ/ランニング専門店ランプロ様の呼びかけにより集まった283足のランニングシューズ、53枚のTシャツが当会をとおしてパラ選手に贈られた。 ジャージの製作(2023年3月) カンボジアが開催国となる東南アジア大会(2023年5月)、東南アジアパラ競技会(同6月)の開催を控え、2022年度はパラ陸上競技会を中止した。パラ陸上競技会スポンサーのActive People's Microfinance Institution PLC様から代替支援として、選手のモチベーションアップや大会後もスポーツを続けてほしいとの願いを込めて、オリジナルデザインのジャージを製作していただき、選手らに贈呈された。 			
		採寸を行う選手	
		大分国際車いすマラソン ヴァン・ヴォン選手	
			お揃いのジャージを着たパラ陸上選手

スポーツを通じた開発支援事業

事業名	【JICA 草の根技術協力事業】 カンボジア王国小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ「PE for All」プロジェクト	
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、小・中・高等学校	
活動理由 2006年から教育・青年・スポーツ省と連携し、小学校の学習指導要領、指導書作成と普及を経て、中学校でも同様の事業を実施し、カンボジア体育科教育の支援を行ってきた。また、同省が高等学校の指導要領を独自で作成、配付し、自立的普及も徐々に進んでいる。 本事業では、対象3都・州への小学校、中学校、高等学校の全ての学校において、新しい体育実施を目標とし、一貫した体育科教育の普及モデルとする。		
プロジェクト・ゴール プノンペン都、バットアンバン州、スヴァイリエン州を対象に、小・中・高等学校において、教育・青年・スポーツ省、各都・州・郡教育局監督の下、学習指導要領及び指導書の内容に沿った新しい体育が実施されている。		
事業成果 <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育普及計画策定ワークショップを通じて、各都・州の2年目の普及計画が策定された。また、評価ワークショップを通じて、各都・州の体育の普及状況が確認され、州・郡教育局担当官、小中高校長及び教員の指導方法改善の課題と新しい体育普及の方向性が確認された。 2. 体育授業モニタリング(3都・州)を通じて、現状の新しい体育の導入状況が確認できたと共に、課題を抽出することができた。また、本邦研修を実施し、3都・州の教育局担当官、校長、教員らからなる14名の研修員が、体育科教育、日本・カンボジア両国の教育環境への理解を深めることができた。体育普及計画導入人材育成ワークショップ(3都・州)を通じて、体育普及計画を理解し、新しい体育を導入できる人材(州・郡教育局、小中高校長及び教員)が育成された。 3. 普及コンテンツ(オンライン向け映像)の作成を進めており、現在、エアロビクスとクメール体操の映像撮影が終わり、教員や生徒向けに公開するための編集が進められている。 		
活動概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 体育授業のモニタリング 3都・州の小中高等学校でモニタリングを実施。約1年で192校の学校を訪問した。 2. 評価ワークショップ 4月21-23日バットアンバン州とスヴァイリエン州、5月24-26日と9月20-22日にプノンペン都、また、10月4-6日にスヴァイリエン州、10月6-8日にバットアンバン州にて、評価ワークショップを開催した。 3. 本邦研修 9月8-16日、東京と岡山にて、本邦研修を実施。岡山市教育委員会のご協力を得て、岡山市内の小中学校を視察。岡山大学での講義も含め、日本の教育現場の状況を理解することができた。 4. 普及計画策定ワークショップ 12月27-29日、3都・州・郡の教育局関係者を対象に、プロジェクトの目標や活動内容、今後の予定を説明し、実際に普及計画を策定するためのワークショップを開催した。 5. 普及計画実践人材育成ワークショップ 1月25-27日にプノンペン都、1月30日-2月1日スヴァイリエン州、1月31日-2月2日バットアンバン州にて、それぞれ都・州・郡の教育局や小中高等学校の校長を対象に、体育教員向けのワークショップを実施し、約250人が参加した。 6. 体育普及コンテンツ制作 カンボジア教育省、一般社団法人 Social Compass と協力し、オンラインで体育を学習するための映像を作成している。2月と3月には国立体育スポーツ研究所の学生が出演し、エアロビクスとクメール体操の映像を作成した。 		



体育授業のモニタリング



普及計画策定ワークショップ



本邦研修

事業名	【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】 カンボジア王国国立体育・スポーツ研究所(NIPES)体育科コース4年制大学化事業
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)
活動理由 現在、カンボジア教育・青年・スポーツ省(以下、教育省)は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士(4年制大学卒業)を取得できるよう、教員養成課程を4年制化しようとしている。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所(以下、NIPES)において2年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。よって本事業では、10年にわたりカンボジアの体育科教育の発展のために活動してきた当会の知見を活かし、先行している他教科の教員養成大学と一貫性のとれた4年制体育大学を設立することを目指す。	
プロジェクト・ゴール 4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員・スタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。	
事業成果 (2022年度: 第3年次事業(2022年3月1日~2023年2月28日)) <ol style="list-style-type: none"> 1. 評価シートを使って、3種12回の授業、運営、施設管理のモニタリングを実施し、4年制コースが継続的に向上していくためのシステム基盤が構築された。 2. 海外研修を含む5種15回の研修会を実施し、英語体育専門図書を翻訳編集して、クメール語の教科書作成等を通して、人材が育成された。 3. 9月に寮の改修工事が完了し、NIPESの施設が整備された。 	
活動概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. NIPESの体育科コースが4年制大学に移行するための制度が整えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育科コース運営モニタリング: 2回(9月、1月) 2. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる人材が育成される。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育教員研修会: [7月]日本体育大学にて、教員の指導能力の向上や大学全体のカリキュラムを体系的に構築していくための講義・実技の研修を実施(4名)。 [8月]本邦研修参加4名の報告を基にNIPESの課題と解決策について討議。 [10月]日本体育大学にて各機関の役割・機能等の大学のマネジメントの仕組み、高等教育機関の認証制度について研修(4名)。 [2月]筑波大学山口拓助教授、プノンペン教員大学 Chapnphirun Sam氏を招聘し、カリキュラム・シラバスと授業の一貫性、教員の強化、授業評価システムについて研修。 ・大学マネジメント能力向上のための研修会: 12月、日本体育大学の岡出美則教授によるオンライン講義実施。 ・体育教員の授業実施状況モニタリング: 7回(NIPES内の講義・実技授業モニタリング3・8・9・10月。中・高等学校の体育教育実習モニタリング、5・7月) ・評価会議: 1月に岡出教授と、カンボジア高等教育機関認定機関ACC、法務局、高等教育部局から各担当者を招聘し、NIPESの4年制大学への正式認定に向け、運営に関する現状や課題を明確化。 ・海外の大学との相互協力: 10月にインドネシアのセマラン州立大学、12月にタイのカセサート大学、シーナカリンウィロット大学と覚書の締結。 ・教科書作成: 英語体育専門図書を翻訳し、7回のワークショップを通じて「体育の教授法と方法論」の教科書を作成。教育省の認定を得て、500部を印刷出版した。 3. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生寮改修工事完了: 9月15日に工事が完了し、2月16日に日本国大使館書記官が出席して完了式典を実施。 ・施設運営・利用状況のモニタリング: 9月、11月、2月に実施。 4. 新事業開始: 2月27日、在カンボジア日本国大使館において「カンボジア王国 ICT化による質の高い4年制体育教員養成大学支援プロジェクト」の契約を締結。3月1日より新校舎建設工事を開始するとともに、ネットワーク敷設工事が完了。また、国際センター設置の研修会を実施した。 	



第1回教科書作成研修会



タイの大学との覚書締結式



改修が完了した NIPES 学生寮

被災地・紛争地における自立・復興支援事業



事業名	日本語教育
支援対象	カンボジアの青少年

活動理由
 設立当時、貧困家庭の子どもの就職が困難な状況で、観光が主な産業であったシェムリアップでは、日本語ができれば仕事に就くことができた。日本語教育の要望を受け、2000年9月に公立チェイ小学校内に無料の日本語教室を開講。これまでに多くの子どもが日本語を学び、自立につながっている。
 その後も、青年を対象に、ビルド・ブライト大学(BBU)外国語センターの日本語講座(2015-2019)、HG ももたろう日本語学校(2019-2022)でニーズに合わせた指導を実施してきた。生徒一人ひとりが希望する進路指導により、日本とカンボジアをつなぐ若者として活躍してもらうことを目的としている。

活動概要
 HG ももたろう日本語学校は、カンボジア人3名、日本人1名の教師と1名のアドバイザーによる指導体制をとっている。コロナ禍により、日本への渡航の目処が立たず、進路変更をする生徒もあり、日本での就労希望者にターゲットを絞った運営体制の見直しを行った。HGの強みである人材育成に軸を置いた日本語指導に再度立ち返ることとし、経費削減も兼ね、公立チェイ小学校内の日本語教室に拠点を移した。

1. 授業
 コロナ禍も落ち着き、中級クラスの生徒にも対面授業を再開したが、1月にチェイ小へ移転した後は、再度オンライン授業による指導を行っている。
 チェイ小学校では、小学生クラス、中学生クラスを新設し、初級日本語の指導を対面で行っている。



小学生クラスの児童 高学年が多い

- 2. その他の活動**
- ・日本語能力試験の結果(7月)
 N5受験4名/合格2名、N4受験4名/合格1名
 - ・「文化庁オンライン日本語教育実証事業」
 7月から9月の約3カ月間、岡山外語学院様のご紹介、ご指導により、同事業に参加。観光コースに6名、初級コースに1名の生徒がオンライン受講し、様々な国の受講生とともに課題に取り組み、良い刺激となった。
 - ・国際交流基金 模擬授業
 テキスト「いんどり」を使用した模擬授業、ワークショップなどへの参加により、教師の研修を行うことができた。
 - ・シェムリアップ日本語教師会
 定期開催への参加をとおして、情報共有ができています。



視聴覚教材による日本について紹介

3. スタッフ交代
 これまで日本語教師として指導の中心であったカン・ナムオイ先生がご結婚によりカンボジアを離れるため退職。欠員補充の求人にも、日本語教室卒業生で10期留学生のロン・スライニットさんが手を挙げてくれた。高校卒業後は、家業を手伝いながら大学に通い、ボランティア活動にも積極的に参加しているとのこと。また一人、支えてもらった側から支える側に。活動を理解し、携わってくれる仲間が増えた。

4. 日本からの教材支援
 新たに日本語学習を始める小・中学生向けに、ノートや鉛筆など授業に必要なものをスターターキットとしてプレゼントした。また、教室内の書棚にも日本の学校から贈られた多くの絵本、図鑑が並び、これから貸出を行えるように準備をしていく。



スターターキットを一人ひとりにプレゼント

事業名	養護施設(ニュー・チャイルド・ケアセンター:NCCC)運営事業	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	6 安全な水とトイレを世界中に
支援対象	シェムリアップ近郊の貧困家庭の児童				
活動理由 孤児、家庭での生活が困難な状況の児童を、安心して生活できる環境のもと養育し、また、就学の機会などを提供することにより、貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう物心両面から支援する。カンボジアの良き市民となる人材を育成する。					
活動概要 1. 児童数 10名(男子4名/女子6名) ※ 2023/3/31 現在 2. 生活 新型コロナウイルスの影響もほぼなくなり、学校に通えるようになり、通常の生活を取り戻した。 6月から毎日の食事に、1個の茹で玉子と1本のバナナを加える「玉子&バナナプロジェクト」を始め、タンパク質とミネラルを補給することで栄養改善を図っている。 センターの外柵が老朽化し、有刺鉄線とコンクリート柱が隣接する田に一齐に倒れた。岡山ロータリークラブ様のご支援により、大規模な改修工事を行い、併せて新たな浄水器システムを導入し、安全が確保された。 家庭復帰や自立により3名の年長児童が退所した。在所児童の立場や役割が変わり、物理的にも精神的にも生活に変化をもたらした。 12月から3月まで日本の大学生インターン1名が、現地にて活動。 3. 教育 小学生の算数学習をインターンがサポートし、四則演算が苦手な子が、指を使ったり棒を書いたりすることなく暗算できるようになった。絵画教室も再開し、小さな美術館スクール(笠原知子氏主宰)に月に2回通い、指導を受けながら絵を描くことを楽しんでいる。途上国の若いアーティストを発掘する「White Canvas」に子ども達の作品を出品していただいたところ、スライモムさんが「Dream Girls Prize」を受賞した。先生や他の受賞した子ども達と一緒に、プノンペンのイオンモールで行われた授賞式に参加。 4. 交流 日本の小学生とのオンライン交流は継続。現地訪問者の受入れも再開した。10月の大学生グループの活動では、プロジェクトマップ핑やマジックを披露してもらった。12月、1月には、岡山学芸館高校と同清秀中学校のフィールドワーク、研修旅行と続き、同年代との交流が活発であった。 12月開催のアンコールワット国際ハーフマラソンにあわせ、有森代表が4年ぶりにNCCCを訪問。一緒に市場に買い物に行ったり、食事を作って食べたりするなど、普段の生活を体験。シェムリアップ領事館に着任された川口所長にも、同日ご訪問いただいた。 2月20日にカンボジアのサッカークラブ Soriya Football Academy (ソリヤ)のメンバーが訪れ、センター内奥の広場に新たに整備したサッカーゴールを使用して、本格的な指導を行ってくれた。 5. 支援お礼 ペアレント様の定期的、継続的なご支援とあわせ、多くの方々からのご寄付や学校で集めた文房具や日用品、衣類等のご支援をいただいた。物価が上がり、食事や教育関連の費用が増えるなか、とても助かっている。					
					
		改修工事後の門扉と NCCC 看板			
					
		「White Canvas」授賞式			
					
		在シェムリアップ日本国領事館 川口所長			
					
		子ども達はみんなサッカーが大好き			

2022年度会計報告

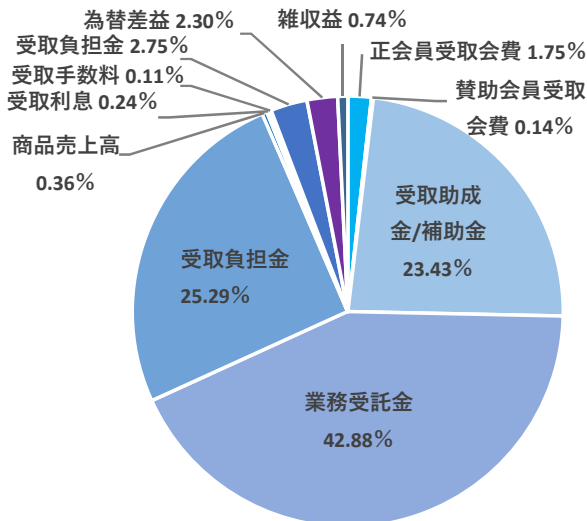
活動計算書 (2022.4.1~2023.3.31)

科 目	金額 (単位:円)
I 経常収益	
正 会 員 受 取 会 費	2,088,000
賛 助 会 員 受 取 会 費	170,000
受 取 寄 付 金	27,886,880
受 取 助 成 金 / 補 助 金	51,036,660
業 務 受 託 金	30,093,800
受 取 負 担 金	430,833
商 品 売 上 高	284,196
受 取 利 息	129,640
受 取 手 数 料	3,278,418
為 替 差 益	2,739,541
雑 収 益	879,472
経 常 収 益 計	119,017,440
II 経常費用	
1 事業費	
国内外におけるスポーツ大会・イベントの運営協力事業	764,811
スポーツを通じた開発支援事業	88,668,672
障がい者支援事業	1,994,726
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	9,906,969
国際理解・交流事業	50,161
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	2,536,635
その他の活動（収益事業）	192,076
事 業 費 計	104,114,050
2 管理費	
管 理 費 経 費	8,690,376
管 理 費 計	8,690,376
経 常 費 用 計	112,804,426
当 期 経 常 増 減 額	6,213,014
法人税、住民税及び事業税	71,000
当 期 正 味 財 産 増 減 額	6,142,014
前 期 繰 越 正 味 財 産 額	72,595,086
次 期 繰 越 正 味 財 産 額	78,737,100

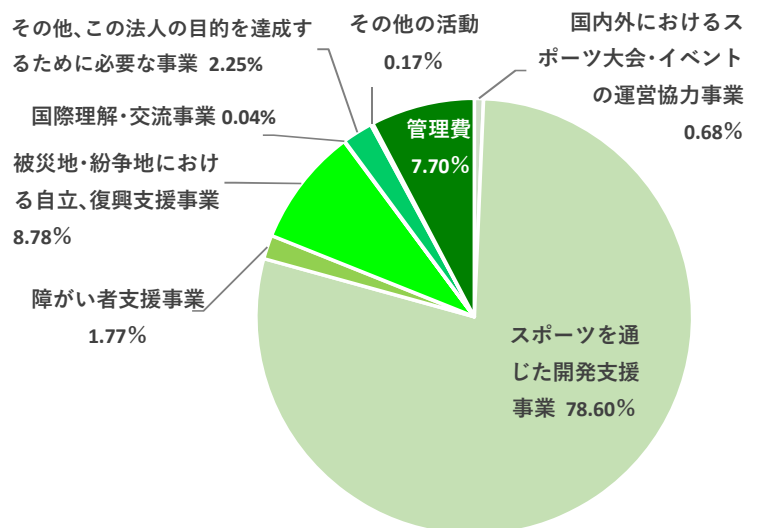
貸借対照表 (2023.3.31現在)

科 目	金額 (単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現 金 預 金	80,265,991
棚 卸 資 産	190,406
貯 蔵 品	464,940
未 収 金	6,000
前 払 費 用	19,900
立 替 金	16,907
仮 払 金	31,670
流 動 資 産 合 計	80,995,814
2 固定資産	
(1) 有形固定資産	
車 両 運 搬 具	436,000
什 器 備 品	152,798
有 形 固 定 資 産 計	588,798
(2) 投資その他の資産	
敷 金	300,742
事 業 積 立 金	50,000,000
投 資 其 他 の 資 産 計	50,300,742
固 定 資 産 合 計	50,889,540
資 産 合 計	131,885,354
II 負債の部	
1 流動負債	
未 払 金	2,736,773
前 受 金	48,969,891
預 り 金	202,690
未 払 法 人 税 等	71,000
未 払 消 費 税	1,167,900
流 動 負 債 合 計	53,148,254
負 債 合 計	53,148,254
III 正味財産の部	
前 期 繰 越 正 味 財 産	72,595,086
当 期 正 味 財 産 増 減 額	6,142,014
正 味 財 産 合 計	78,737,100
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	131,885,354

経常収益内訳 (計: ¥77,582,871)



経常費用内訳 (計: ¥79,126,578)



ご支援・ご協力ありがとうございます

新型コロナウイルスの資金調達に及ぼす影響を心配しておりましたが、皆様からの温かいご支援、ご協力のおかげをもちまして、予定の活動を無事に終えることができました。また、2022年度より新設の賛助会員の登録も順調にスタートしました。誠にありがとうございました。

◆ 法人正会員 28

NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド
学校法人森教育学園
株式会社ビザビ
株式会社 J T B 岡山支店
株式会社 翠檜
株式会社 アミジョン
株式会社 研美社
株式会社 浜谷金属工業所
株式会社 フォレスト・ジャパン
株式会社 マルワ電化
株式会社 R I G H T S .
木田山宝積寺
ゲンゼスポーツ株式会社
公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク

高野山真言宗総本山金剛峯寺
宗教法人 津梁院
宗教法人 東漸院
大光電機株式会社
中央自動車工業株式会社
中国建設工業株式会社
天満屋ストア労働組合
ナカシマホールディングス株式会社
奈良県自動車整備工業協同組合
奈良トヨタ株式会社
日立建機株式会社
メタウォーター株式会社
宗教法人 薬王寺
ユニック中四国販売株式会社
(五十音順、敬称略)

◆ 法人賛助会員 1

中国建設工業株式会社 (敬称略)

◆ 法人・団体様のご寄付・ご協力 45

うち5万円以上のご寄付、ご協力をいただいた団体・企業様をご紹介します。

アンコールワット国際ハーフマラソン
朝日塾小学校
一般財団法人友井基金
岡山市立第三藤田小学校6年生
岡山せとうちライオンズクラブ
岡山ロータリークラブ
親子チャリティマラソンinおもちゃ王国
かすみがうらマラソン大会事務局
学校法人森教育学園
株式会社 翠檜
株式会社 栄光スポーツ
株式会社 大町
株式会社 山陽新聞社
株式会社 トヨタレンタリース奈良
公益財団法人大阪陸上競技協会

国際ロータリークラブ第2780地区第3グループ
サンケイスポーツ
就実中学校・就実高等学校生徒会
大光電機株式会社
大光電機株式会社有志御一同
中津川法人会
奈良トヨタ株式会社
ハート・オブ・ゴールド飯田クラブ
ハート・オブ・ゴールド長岡クラブ
ハート・オブ・ゴールド福島クラブ
藤沢ロータリークラブ
藤沢南ロータリークラブ
ミ・ナーラ マネジメントオフィス
メタウォーター株式会社
(五十音順、敬称略)

◆ 個人正会員 533、個人賛助会員 10。 ◆ 個人のご寄付 234、うち5万円を超えるもの 16。

※ 個人情報保護のため、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

多くの皆様からご支援に、改めてお礼申し上げますとともに、引き続き、宜しく願い申し上げます。

サポーター大募集!!

小さな支援が集まり 大きな力になります

支える

正会員になる【個人 / 法人】

個人 3,000円/年
法人 30,000円/年

※ 総会の議決権を有します。

賛助会員になる【個人 / 法人】

個人会員 10,000円/年
法人会員 50,000円/年

※ 寄付金受領証明書を発行。
税制上の優遇措置の対象
となります。

寄付をする

- プロジェクト寄付 -

特定の活動を応援したい!!
現地から活動報告が届き、
活動現場の訪問もできます。

- ① ハート・ペアレント(里親制度)
- ② 日本語教育
- ③ 留学生
- ④ 障害者スポーツ
- ⑤ スポーツ施設・用具(学校)

- 一般寄付 -

その時最も必要としている
活動、また、団体の運営に
も充てさせていただきます。

- 物資寄付 -

お手許の使わないものが
役に立ちます。

- ・スポーツ用品・用具
- ・石鹸・タオル等日用品
(新品に限らせていただきます)
- ・文具・教材・本・絵本
- ・書き損じはがき、未使用切手
- ・QUOカード等(プリペイド式)

HGは、認定NPO法人です。法人、個人ともに、ご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。「相続寄付」「遺贈」についても、ご相談ください。

参加する

ボランティア

個人で、グループで、活動のお手伝いをしていただけませんか? 本部事務局での事務やイベントのサポート、専門的な知識や技術(IT、デザイン、通訳・翻訳)をお持ちの方を募っています。シニアの方にもご活躍いただいています!

インターンシップ

国際協力・開発、教育、スポーツに関心のある大学生や社会人の方を対象に、1カ月~1年の期間で、本部事務局・東南アジア事務所にて受け入れています。ともに活動しましょう!

スタディ・ツアー

HGスタディ・ツアー
年1回。HGの現地での活動に直接触れることができる貴重な体験となります。

※ 研修やフィールド・ワーク、ゼミ旅行等、HGの活動現場で「学び」のお手伝いをします。是非、ご相談ください。

みなさまのご支援、ご参加をお待ちしています!

年次報告書と通信(2回/年)の送付、交流会や特別イベントのご案内をさせていただきます。

認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7-101 Tel/Fax 086-284-9700 e-mail: hginfo@hofg.org